

(一般質問)

質問日	令和2年3月10日(火)		質問方式	分割方式			
質問順位	4	会派名	自由民主党浜松	議席番号	41	氏名	花井和夫
表題	質問内容						答弁者の職名
1 地方創生について	<p>地方創生の第2期の新しい視点として関係人口の創出と拡大が加わり、地域課題の解決や地方移住にもつながるものとして期待されている。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 関係人口をどのように捉え、どう取り組んでいくか伺う。</p> <p>(2) 首都圏における30歳前後の若者への移住に向けた取り組みについて伺う。</p>						内藤企画調整部長 山下市民部長
2 報徳の精神について	<p>浜松で発展した報徳の精神は、浜松の産業の発展や地域づくり、また、人づくりや教育さらには福祉などに果たしてきた役割は大きい。やらまいか精神とともに浜松の二大精神ともいえ、地方創生やSDGsにつながるものがある。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 浜松における報徳精神の歴史や果たしてきた役割について伺う。</p> <p>(2) 地方創生の推進に当たってSDGsの推進にもつながる報徳の精神についてどう捉えているか伺う。</p>						寺田文化振興担当部長 内藤企画調整部長
3 東京パラリンピック2020について	<p>東京パラリンピックの開幕まで半年を切り準備も本格化してきた。本市においてもブラジルパラリンピック選手団のサポートボランティアであるトルシーダには1500人の登録があり、本番に向けての研修や実務などその準備に慌ただしい。本市は先進的な取り組みが評価され先導的共生社会ホストタウンにも認定され他都市のモデルになり得る。</p> <p>そこで、以下4点について伺う。</p> <p>(1) トルシーダの取り組みは、市民の心のユニバーサルデザインを一層浸透させ共生社会の実現に大きくつながるものである。そこで、本番に向けたトルシーダの取り組みについて伺う。</p> <p>(2) パラリンピックの聖火リレーについて採火から出立式までその概要が発表された。浜松ならではの採火方法や聖火リレー、出立式をどのようにしていくか、また盛り上げていくか伺う。</p> <p>(3) 今回のホストタウンとしての経験を生かし、障害者スポーツ競技への波及効果や大会の誘致などパラリンピックを契機とした障害者スポーツの振興について伺う。</p> <p>(4) 新学習指導要領にパラリンピックが示されるなど教育現場での指導の必要性が増しており、パラリンピック</p>						寺田文化振興担当部長 " " 伊熊学校教育部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>を通した学校教育での共生社会づくりに向けた取り組みについて伺う。</p>	
<p>4 家康公浜松城築城 450 年・三方ヶ原合戦 450 年について</p>	<p>本年は、家康公浜松城築城450年に当たり、2年後の令和4年には三方ヶ原合戦から450年となる。生涯唯一の敗戦といわれる三方ヶ原合戦など浜松の地での苦難を経て天下取りに歩む家康公の魅力をさらに掘り起し観光や地域の活性化につなげる絶好の機会である。</p> <p>そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 平成27年に行われた家康公顕彰四百年事業の成果をどう継承発展させ450年事業を行っていくか伺う。</p> <p>(2) 市内各地に残る家康公や三方ヶ原合戦にまつわる伝説伝承も含めさらなる歴史の掘り起しは450年事業をより魅力あるものにする。その取り組みについて伺う。</p> <p>(3) 家康公の出世を支えた浜松・浜名湖地域産の食材を用いた浜松パワーフードの取り組みについて伺う。</p>	<p>石坂観光・ブランド振興担当部長 寺田文化振興担当部長 山下農林水産担当部長</p>
<p>5 防災対策について</p>	<p>(1) 近年、大規模災害が広域的に多発しており、いち早い被災者の生活再建に向けた支援が求められている。そこで、罹災証明の迅速な発行など業務の一元化等を可能にする被災者生活再建支援システムの導入について、今後の活用方法や運用を伺う。</p> <p>(2) 自主防災隊は共助のかなめであり地域防災力の根幹を担っている。近年、災害リスクが多様化しておりその役割はますます大きくなっている。しかし、高齢化や生活様式の変化など社会状況が変わる中で活動も難しくなっている面もある。今後の自主防災隊の果たす役割とあり方について伺う。</p> <p>(3) 地域防災訓練など防災訓練において中高生の参加がふえており地域の防災力としても大いに期待されている。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>ア 地域防災の担い手としての中高生の役割と地域連携について伺う。</p> <p>イ 少年消防クラブ活動への中高生の参加について伺う。</p>	<p>宮城危機管理監 // // 鵜飼消防長</p>
<p>6 災害ボランティアについて</p>	<p>昨年の台風19号の被災地では復旧復興に向けての取り組みが行われており、被災者の生活再建支援に向けて災害ボランティアの活動は大きな力となっている。災害ボランティアの受け入れ経験のない本市にとって、発災時における活動がより円滑に効率的に行えるよう受援力を高めるために平常時から行政と社協、NPOなどとの協力体制を築いておく必要がある。また、一方で被災地でのボランティア活動を希望しているが交通費や宿</p>	<p>朝月健康福祉部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>泊費等の負担を理由にちゅうちょするケースもあることから、ボランティア活動がしやすい環境を作っていく必要がある。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 受援力を高めるための災害ボランティアの受け入れ体制強化について伺う。</p> <p>(2) 災害ボランティアの派遣支援の取り組みについて伺う。</p>	
<p>7 三方原スマートインターチェンジについて</p>	<p>東名高速道路の三方原スマートインターチェンジが開通してから3年が経過しようとしている。</p> <p>中心市街地から高速道路へのアクセス向上や物流の効率化による地域産業発展、観光振興による地域活性化、また災害時の救援・復旧活動の迅速化など多面的な効果に対する期待は大きい。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 開通からこれまでの交通量等の状況とストック効果について伺う。</p> <p>(2) スマートインターチェンジにつながるアクセス道路である有玉南初生線バイパス整備の進捗について伺う。</p>	<p>柴山土木部長</p>